

## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に上げ＞  
口永良部島では、山体の浅いところを震源とする火山性地震が増加しており、地震活動が活発化しています。

火山活動が高まった状態となっており、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があることから、本日（9日）02時25分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

### 【防災上の警戒事項等】

新岳火口及び古岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

### ○ 活動概況

口永良部島では、5月頃から古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増減を繰り返しています。本日（9日）01時頃から古岳付近の浅いところが震源と推定される火山性地震が増加しており、地震活動が活発化しています。火山性地震は、9日02時15分までの1時間で11回発生しており、その後も多い状態です。

火山活動が高まった状態となっていることから、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。新岳火口及び古岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2026年6月以降は1日あたり100トン未満と少ない状態で経過しており、7月8日の観測では1日あたり30トンでした。

GNSS連続観測では、2023年11月以降、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び屋久島町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

噴火警戒レベルの判定基準表については気象庁ホームページを御覧ください。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level\\_kijunn/keikailevelkijunn.html](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html)

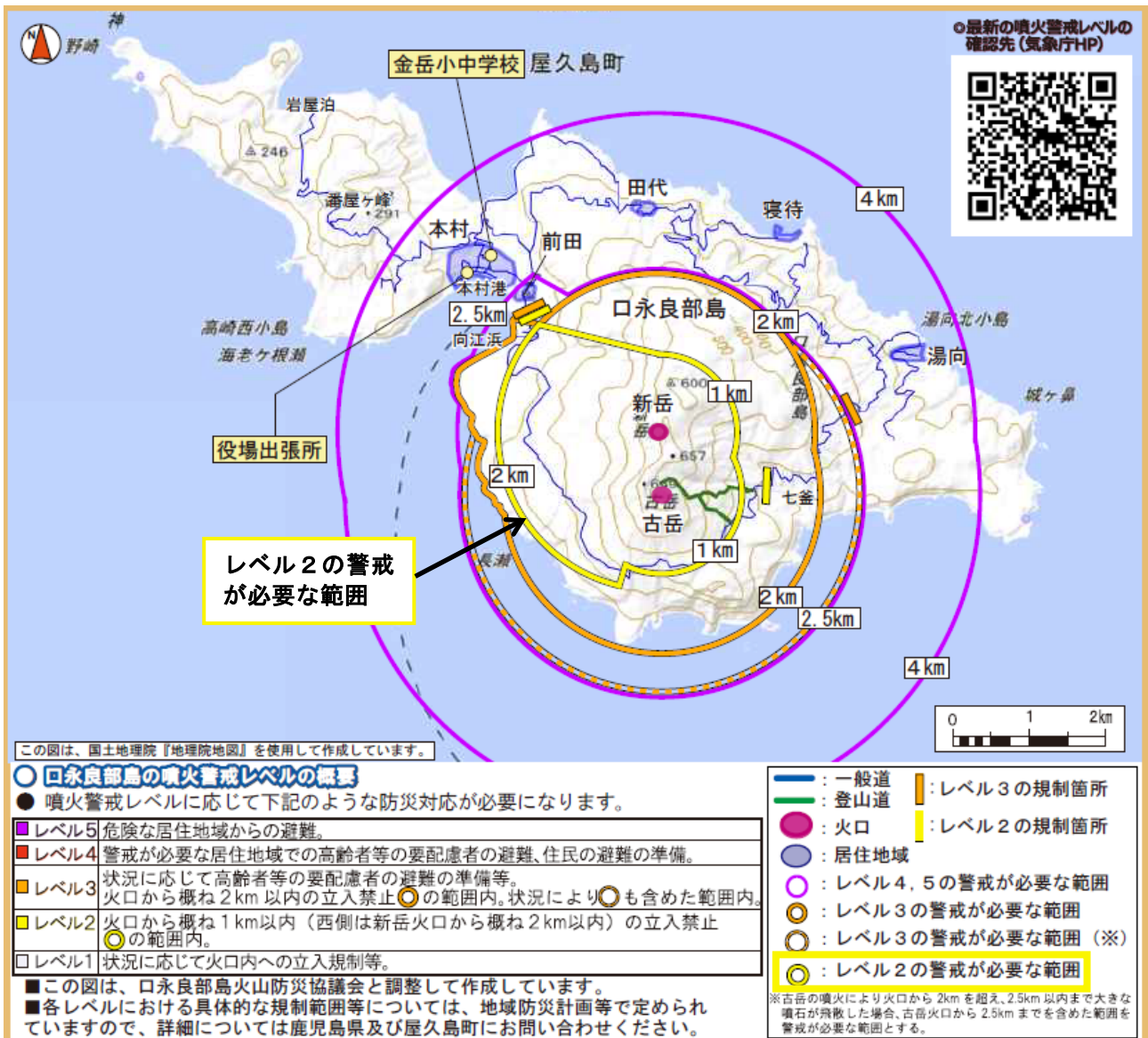


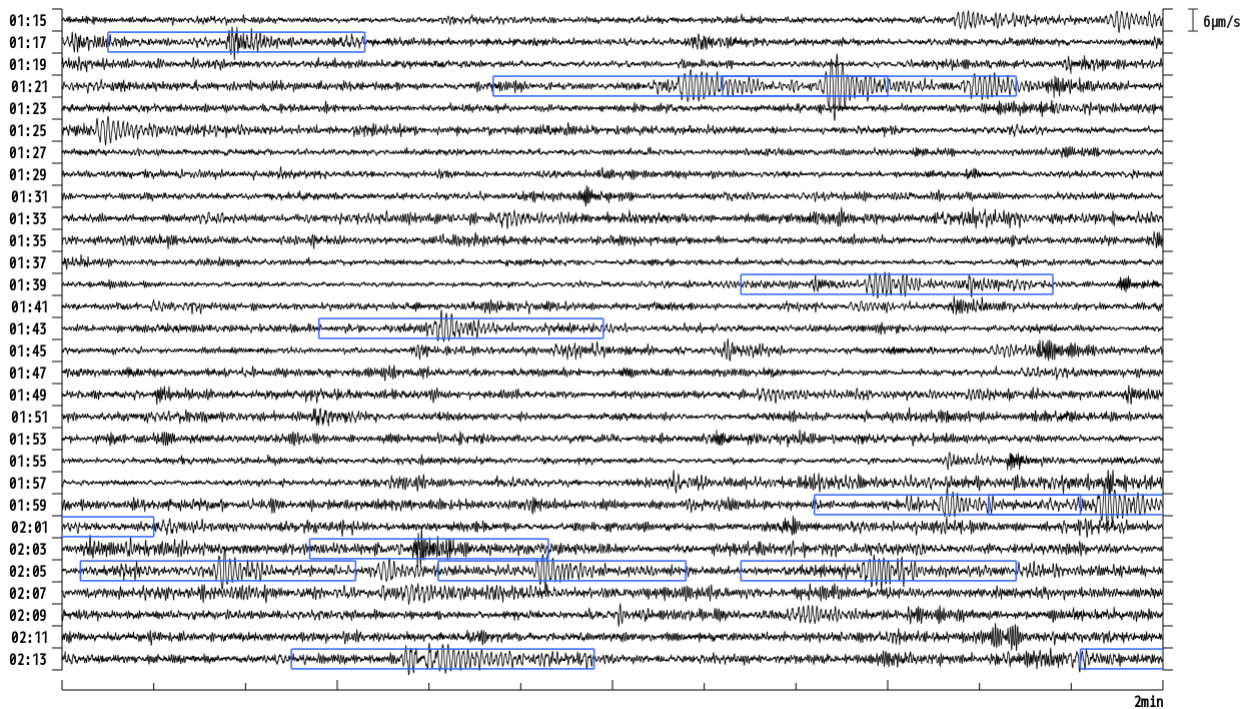
図1 口永良部島 警戒が必要な範囲

新岳火口及び古岳火口から概ね1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2 km の範囲では、火砕流に警戒してください。

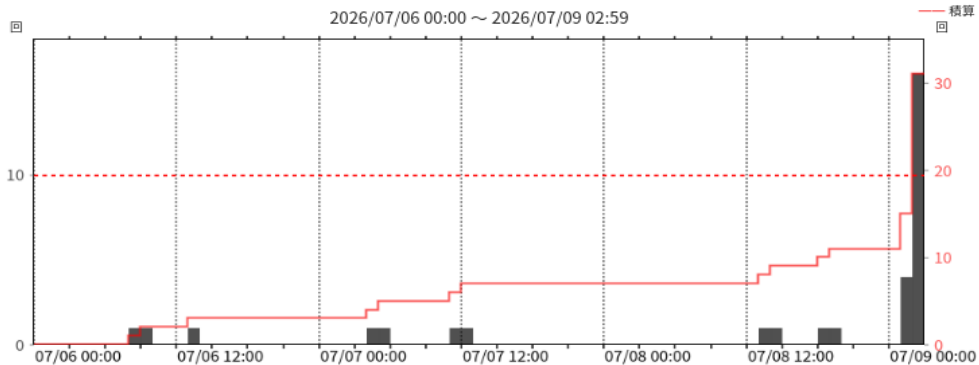
風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

① 火山性地震の波形（2026年7月9日01時15分～02時14分、古岳北観測点上下動成分）



② 火山性地震の特別回数



③ 火山性地震の最大振幅（古岳北観測点上下動成分）

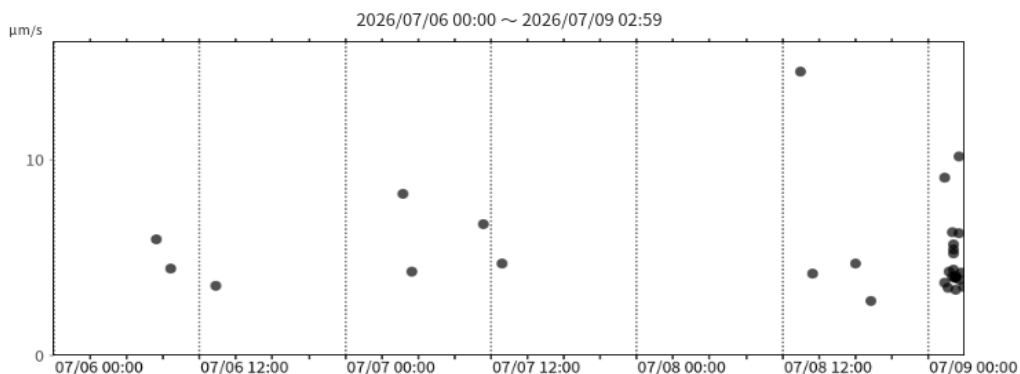


図2 口永良部島 火山性地震の発生状況（2026年7月9日01時15分～02時14分、古岳北観測点上下動成分）、及び時間別地震回数と最大振幅（2026年7月6日～9日03時までの速報値）

- ・本日（7月9日）01時頃から古岳付近の浅いところが震源と推定される火山性地震が増加しており、地震活動が活発化しています。02時15分までの1時間で11回発生しており、その後も多い状態です。
- ・振幅の大きな火山性地震は発生していません。

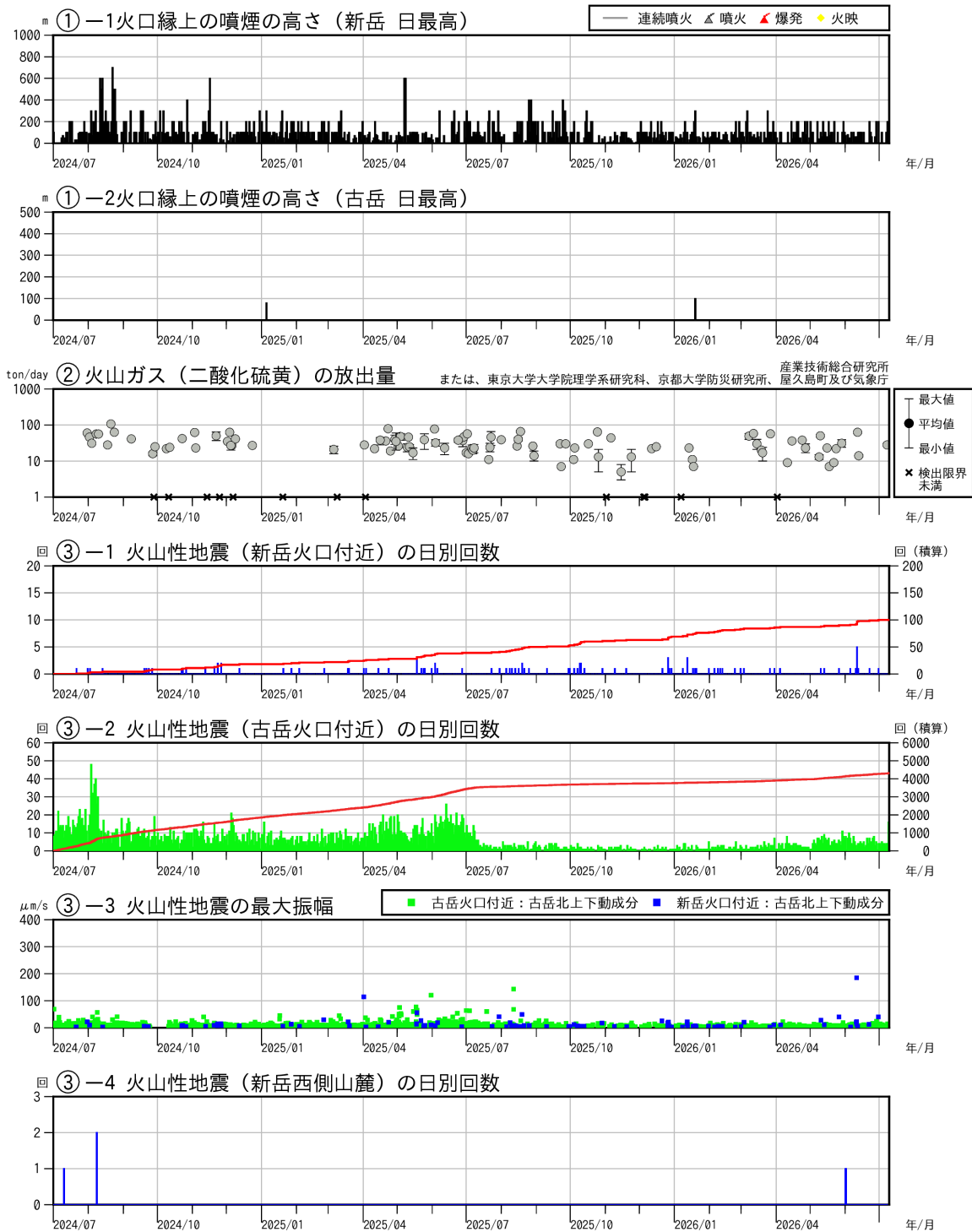


図3 口永良部島 最近の火山活動経過図（2024年5月～2026年7月9日03時までの速報値）

<6月以降の概況>

- ・噴煙の状況に変化はなく、新岳火口では白色の噴煙が最高で火口縁上 200mまで上がりました。古岳では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は確認されませんでした。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1日あたり100トン未満と少ない状態で経過しています。7月8日の観測では1日あたり30トンでした。
- ・5月頃から古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増減を繰り返しています。7月9日01時頃から古岳火口付近の火山性地震が増加し、地震活動が活発化しています。新岳火口付近においても時折、火山性地震が発生しています。
- ・振幅の大きな火山性地震は発生していません。新岳西側山麓付近の火山性地震は少ない状態です。

※③-3 野池山3観測点の障害のためデータが抜けている期間があります。

赤線は火山性地震の回数の積算（右軸）を示します。

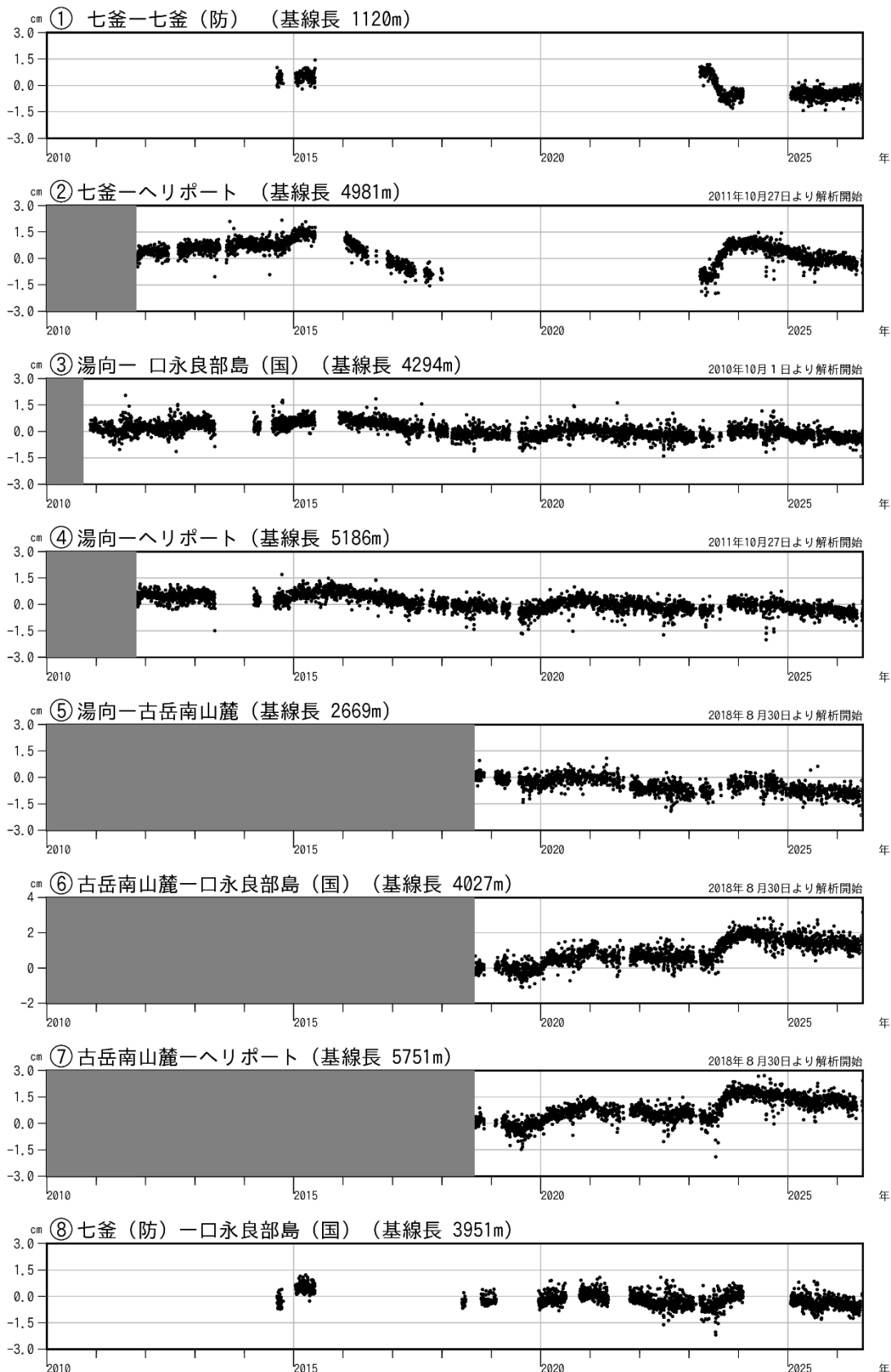


図4 口永良部島 GNSS 連続観測による基線長変化 (2023年4月~2026年7月6日)

GNSS 連続観測では、2023年11月以降、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

これらの基線は図5の①~⑧に対応しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2023年3月23日の観測点修繕工事(七釜観測点)に伴うステップを補正しています。

(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所

